

手を離なく親と子



令和4年11月発行 登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No. 15

知っていますか？「ヤングケアラー」

※ヤングケアラーとは？

『家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面、家計支援のサポートなどを行っている、18歳未満の子ども』と定義している。

(一般社団法人日本ケアラー連盟より)

※ヤングケアラーの現状

Q ヤングケアラーはどれくらいいるのですか？

A 令和2年度の厚生労働省の調査では、調査に参加した中学校の46.6%、全日制高校の49.8%にヤングケアラーが『いる』という結果になっています。また、同調査では、『家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか』という質問に、『いる』と答えた中学2年生は5.7%にのびりました。これは、回答した中学2年生の17人に1人がヤングケアラーだったということになります。

Q ヤングケアラーは、毎日家事や家族の世話をしているのですか？

A 世話をしている家族が『いる』と回答した人に質問すると、半数近くが、『ほぼ毎日』世話をしているという結果になっています。

また、同調査では、平日1日あたり世事に費やす時間として、中学2年生は平均4時間、全日制高校2年生は平均3.8時間となっています。

Q ヤングケアラーは具体的にどんなことをしているのでしょうか？

A ヤングケアラーがしていることとして多いのは、食事の準備、掃除、洗濯などといった家事、見守り、きょうだいの世話、感情面のサポートなどです。

Q 家族のケアをすることで、ヤングケアラーの生活にはどんな影響が出るのでしょうか？

A 人にもよりますが、自分の時間が取れない、勉強する時間が充分に取れない、ケアについて話せる人がいなくて孤独を感じる、ストレスを感じる、友人と遊ぶことができない、睡眠が充分に取れない、というヤングケアラーは少なくありません。このように、こどもや若者が担うケアの負担は大きいものがあります。



「ヤングケアラーではないか？」と気付くきっかけ

【学校、保育所等の分野】

- 本人の健康上に問題はなさそうだが欠席が多い、不登校である
- 遅刻や早退が多い
- 保健室で過ごしていることが多い
- 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
- 宿題や持ち物の忘れ物が多い
- 年齢と比べて情緒的成熟度が高い
- 優等生でいつも頑張っている
- 子ども同士よりも大人と話が合う
- 周囲の人に気を遣いすぎる
- 身だしなみが整っていないことが多い
- 児童・生徒から相談がある
- 家庭訪問時や生活ノート等にケアをしていることが書かれている
- 保護者が授業参観や保護者面談に来ない
- 幼いきょうだいの送迎をしていることがある

【地域住民、その他の分野】

- 学校へ行っているべき時間に、学校以外で姿を見かけることがある
- 子どもだけの姿をよく見かける
- 友達と遊んでいる姿をあまり見かけない
- 毎日のようにスーパーで買い物をしている
- 毎日のように洗濯物を干している
- 自治会の集まり等、通常大人が参加する場に子どもだけで参加している
- 家族の介護・介助をしている姿を見かける
- ごみ問題の発生
- 子どもが親の通訳をしている

【参考：学校・教育委員会におけるヤングケアラー支援のためのガイドライン

～多機関連携による支援の充実に向けて～（北海道教育委員会・北海道保健福祉部）】

【相談窓口】

- 北海道ヤングケアラー相談サポートセンター ☎ 0120 - 516 - 086
- 北海道子ども相談支援センター ☎ 0120 - 3882 - 56
- 児童相談所専用ダイヤル ☎ 0120 - 189 - 783
- 登別市教育委員会学校教育グループ ☎ 0143 - 88 - 1162
- 登別市こども家庭グループこども相談室 ☎ 0143 - 85 - 6677